

## 人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点	価値的・態度的側面のみならず、知識的側面や技能的側面に関する指導がバランスよく行われ、実践力・行動力の育成につながっている事例
-------	-----------------------------------------------------------------

### 1. 基本情報

#### ○都道府県名及び市町村名

滋賀県彦根市

#### ○学校名

彦根市立若葉小学校

#### ○学校のURL

[http://www.city.hikone.shiga.jp/edu/gakko/syoukai/wakaba\\_s/wakaba\\_s.html](http://www.city.hikone.shiga.jp/edu/gakko/syoukai/wakaba_s/wakaba_s.html)

### 2. 学校紹介

#### ○学級数

【合計】 11 学級

#### ○児童生徒数

【全児童数】 255 人

(内訳：1年生33人、2年生31人、3年生45人、4年生52人、  
5年生39人、6年生55人)

#### ○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

##### 【学校教育目標】

自己の生き方にきびしく 人の心にやさしく ともに生きる子どもの育成

##### 【人権教育の目標】

集団生活の中で、自他の相違を認め、互いに尊重し合うことを通して、人権に対する理解・認識を深め、さらに、明るい未来に対する展望がもてる子どもを育成する

#### ○人権教育にかかる取組の全体概要

若葉小学校人権教育全体計画		
<p>&lt;人権教育実践上の課題&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・自分の思いや考えが安心して話すことのできる場や環境を作る。</li><li>・小集団および学級集団の連帯意識を高める。</li><li>・自尊感情を育て、更に自らのうちに潜む差別性に気づき、変容していくことのできる鋭い人権感覚を身につけさせる。</li><li>・基本的な生活習慣を身につけさせ場に応じて自ら判断して行動できる主体的な生活態度を育成する。</li></ul>	<p>&lt;学校教育目標&gt;</p> <p>自己の生き方にきびしく</p> <p>人の心にやさしく</p> <p>ともに生きる子どもの育成</p>	<p>&lt;子どもの実態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"><li>・明るく伸び伸びとしていて活発に活動できる子どもが多い。</li><li>・辛いこと苦しいこと苦手なことに直面したとき、心の弱さが現れる。</li><li>・自分の行動について、立ち止まって考えたり、不合理さを指摘できない子どもがいる。</li></ul>

<ul style="list-style-type: none"> <li>・「生きる力」の育成を目指し、気づき追求し続ける喜びを味わわせるとともに、明るい未来への展望がもてる学習を創造する。</li> <li>・人権問題を正しく認識し、その解決に向けて積極的に取り組めるようにする。</li> </ul>	<p>&lt;めざす子ども像&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ねばり強くがんばる子     &lt;自律&gt;</li> <li>・友だちにやさしい子     &lt;寛容&gt;</li> <li>・みんなと協力できる子     &lt;共生&gt;</li> </ul>	<p>&lt;保護者・地域の実態&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新興住宅地に位置し、住民相互の関わりを深める活動が進みつつある。</li> <li>・核家族や共働きの家庭が大半を占め、地域間の人間関係が希薄である。</li> </ul>
------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------	---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------

<職員研修>

- ・正しい理解と認識を身につけるための研修の充実を図る。
- ・人権問題を的確にとらえる技能や態度を身に付ける。
- ・安心して学習できる環境をつくる。
- ・教師間で人権についての会話が大きくできるように関係を深めていく。

<人権教育の目標>  
(人権教育がめざすもの)

集団生活の中で、自他の相違を認め、互いに尊重し合うことを通して、人権に対する理解・認識を深め、さらに、明るい未来に対する展望がもてる子どもを育成する。

<地域・保護者等の連携>

- ・家庭訪問・懇談会・学年通信等
- ・学区人権教育推進協議会
- ・PTA連絡協議会
- ・各地区子ども会
- ・行政、相談機関、教育委員会
- ・中学校ブロック人権教育研究会

<普遍的な視点からのアプローチ>

- かけがえのない人間として自らの生き方を追求する (人間認識)
- 自尊感情を高め、豊かな感性を育む (人間認識)
- 人とのかかわりを通して自分を見つめ高める (民主的な人格形成)
- 社会とのかかわりを通して互いを認め合い共に生きる (社会認識)
- ・実感・納得・感動のある授業づくり (心に響く道徳教育、教科指導の充実と確かな学力の育成)
- ・自己指導能力を育成する生徒指導
- ・豊かなかかわりとともに未来への夢を育む総合的な学習の時間
- ・読書の楽しさや喜びを味わわせることを通して豊かな情操を養う読書指導

<個別的な視点からのアプローチ>

- 差別の不合理についての認識を深める
- 人権獲得の歴史と人々の生きざまに学ぶ
- 身の回りの課題解決に向けた実践的態度を培う
- さまざまな人権課題の学びへと発展させる
- ・生活や労働に結びついた学習、人や自然へのかかわりを通して温かな心を育てるおはようタイムの指導 (環境教育)
- ・命の尊さについて学びを深める健康と性の教育
- (さまざまな人権課題の学び)
- ・同和問題・女性・子ども・高齢者・障害者
- ・外国人・その他

人権教育学年目標						
1年	2年	3年	4年	5年	6年	特別支援学級
<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然に親しんだり、学校や地域で生活したりする中で、みんなと仲良く助け合おうとする態度を育てる</li> <li>・自分の思いが、はっきりと言える</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・身近な自然に親しんだり、学校や地域で生活したりする中で、自分以外の思いに気づきみんなと仲良く助け合おうとする態度を育てる</li> <li>・思いや考えを出し合い、よりよく生活しようとする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や家庭・地域において生き生きと活動する中で、互いに協力して助け合おうとする意欲や態度を育てる</li> <li>・自分たちの生活の中で、おもしろいと思えることが言え、過ちをみんなと協力して正しくする</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や家庭・地域において生き生きと生活する中で互いが認め合い、支え合い磨きあおうとする意欲や態度を育てる</li> <li>・身の回りの生活における不合理さに気づき、相手の立場を考えて行動することができる</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・学校や社会の様々な事象の中に見られる不合理や矛盾に気づき、相手の立場を尊重し、仲間とともに生活を向上させていこうとする意欲や態度を育てる</li> <li>・思いやりややさしさを大切にし、生活の中にある問題をみんなと協力して解決する</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・差別の中でたくましく生きる人々の姿にふれ、差別の不合理性に気づき、真実を見抜こうとする正しい判断力と、よりよい生活をめざし意欲的に取り組む態度を育てる</li> <li>・いろいろな立場の人々の人権を尊重し、生活の中にある課題の解決に向けて意欲的に取り組む</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・自分の思いがはっきり言える</li> <li>・思いやりのあるやさしい態度で接することができる</li> <li>・友だちを大切にしながらよく助け合うことができる</li> </ul>

<p>&lt;教科&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・基礎的、基本的な内容の確実な定着を図る</li> <li>・一人ひとりの子どもの見方・感じ方を大切に、さらに気づき追求し続ける授業の改善を図る。</li> <li>・自然に親しみ生き物を大切にすることを通して、命を大切にすることを育てる</li> </ul>	<p>&lt;道徳&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・体験活動を通して、児童の内面に根ざした道徳性の育成を図る授業の改善</li> <li>・心をゆさぶる資料の選択と開発</li> <li>・自分を見つめる日（月一回人権の日）の全校統一した取組</li> </ul>	<p>&lt;特別活動&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・縦割り班等、異学年集団による活動を通して連帯感や所属感を向上させる</li> <li>・自己選択、自己決定し主体的に関わろうとする態度を育て、個性の伸長を図る</li> </ul>	<p>&lt;総合的な学習の時間&gt;</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・人と自然にやさしく関わり、小さな夢をえがいて心のふるさとを作るとともに、自ら気づいた課題について解決する方法を身につけさせる</li> </ul>
<p>【生徒指導】・個性を伸ばし、子ども同士が高め合える、民主的な集団づくりを通して、自己指導力を身につけ、自立できる子どもを育てる</p>			

### 3. 特色ある実践事例の内容

#### 1. 取組のねらい

6年総合的な学習の時間

テーマ：「平和の樹（被爆アオギリ）を通して学ぶ」

ねらい：平和の樹（被爆アオギリ）にこめられた思いや願いを発信する活動に取り組むことを通して、命の尊厳、友との絆を大切にすることを養う。

#### 2. 取組をはじめたきっかけ

戦争は最大の人権侵害である。その中でも、広島・長崎に投下された原子爆弾は多くの人々の命を一瞬にして奪った。本取組は、その中でも生き続けた「被爆樹」を通して、命の尊厳、人権が守られた平和な社会への思いを深めることをねらった。

「被爆樹」とは、原子爆弾の被害を受け、75年間草木が生えないといわれた広島で被爆に負けずに翌年芽を出し、今も生き続け、人々に生きる希望や勇気を与え続ける樹々があり、それらを総称している。

<経緯>

**3年前**

6年生（現中学3年生）が被爆桜を学校法人安田学園安田女子中学校・高等学校から譲り受けた。被爆桜を育てることを通して、命・平和を大切にすることを育てて欲しいと、ペア学年だった3年生（現在6年生）に引き継いだ。

**2年前**

被爆アオギリを通して平和活動に取り組む方から被爆アオギリの苗と種を譲り受ける機会を得た。本校にとって2本目の被爆樹との出会いであった。

**1年前**

東日本大震災により、福島県から一時避難としてA児が転入してきた（2ヶ月後に福島県へ帰郷）。A児を含めた当時5年生（現6年生）の子どもたちが、ベトナム戦争で被害を受



けたドクさんとともに被爆アオギリの植え付けを行った（大震災の見舞いに来日され、被爆桜と出会うために来校）。

ここから、被爆桜に始まった本取組の第2段階として、被爆アオギリの生育を通して、平和の大切さ、生命の尊厳、友との絆をさらに深め、これらのことを学び発信していくことをねらった。

### 3. 取組の内容

#### ○被爆アオギリの歴史に学ぶ

- ・アオギリの樹について学ぶ（樹医）

植物「アオギリ」について学習する。幹や葉、花、樹皮や果実などの特徴について聞き、アオギリの生育について学ぶことができた。

- ・被爆アオギリとは（平和アオギリを通して平和活動に取り組む方）

被爆アオギリの歴史、被爆アオギリに関わってきた人々の願いや思いを聞く。また、被爆アオギリを通して平和の大切さについて訴えておられることから、活動への思いや願い、ご本人の生き方にふれ、今後の自分たちの取組への思いを高めることができた。

- ・被爆アオギリについての調べ学習

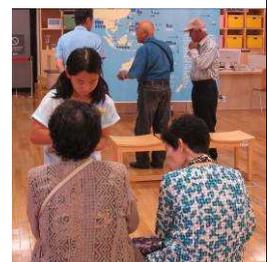
67年前に何が起こったのか、被爆アオギリにこめられた思いや願いについて調べた。

- ・Metisさんへの手紙

被爆アオギリの学習を進める中で、被爆アオギリを題材にした歌を歌われているMetisさんの存在を知る。自身が被爆3世であること、平和な社会を作っていくことの必要性を歌にして表現されていることなど、その思いや願いを知る。歌詞に書かれた思いに共感し、被爆アオギリを通して考えた自分たちの思いを伝えようと手紙を送った。Metisさんからも返事があり、被爆アオギリを通して、人とのつながりが広がった。

- ・戦争当時の人々の思いにふれる

アオギリが被爆した当時の様子や人々の思いを少しでも知ろうと、滋賀県平和祈念館へ出かけた。語り部のお話や展示物等から、戦争の悲惨さや復興への力強い生き方などを学び、被爆アオギリを通して平和の大切さを発信しようとする意識を高めた。



#### ○被爆アオギリを通して平和の大切さを発信する

- ・子ども国会での発信

福島県から一時避難してきたA児は2カ月で福島県へ戻ったが、その後も手紙を通して交流は続いていた。ともに種を植えた被爆アオギリを育てることを通して、福島とのつながりを強く感じていた。そんな折、参議院で開かれた「子ども国会」で発信する機会を得た。A児との関わりから学んだことや被爆アオギリにこめられた思いを伝えるとともに、みんなが笑って過ごすことが



できる平和な世の中を願う心を被爆アオギリに託して、全国から参加した子ども議員に発信した。

つらいはずなのに笑顔のA君に勇気づけられた。被爆アオギリを育てることと福島のア君の笑顔を忘れず弱音を言う自分に対して強くなれた。A君にとっても、その笑顔が苦しい時の強さに変わると信じている。

子ども国会には、福島県へ帰郷したA児も駆けつけ、被爆アオギリの苗を贈った。また、自分たちの思いを更に多くの人々に伝えようと、衆、参両議院の議長にも会い、平和と復興への願いを込めた苗木を贈った。贈った3本の苗木は、福島県の小学校、両議長公邸へ植樹される予定である。

- ・幼稚園、保育園への発信

近隣の4園に、被爆アオギリの苗を贈った。自分たちが何を伝えたいのかを明確にし、園児の立場になって、発信方法を工夫した。戦争や平和についての理解は、まだ難しいかもしれない。しかし、毎日被爆アオギリの水やりやお世話をすることで、平和を大切にすることを育ててほしいと願いをこめて発信した。



- ・子ども市議会

子ども市議会で、被爆アオギリを「彦根市の平和のシンボル」として植樹することを提案した。多くの人に被爆アオギリを通して、平和の大切さ、命の尊さを伝え、考えるきっかけにしたいと発信したところ、植樹場所や時期について前向きに検討するという答弁を得た。

#### 4. 実践事例の実績、実施による効果

##### ○発信にむけてつけた力

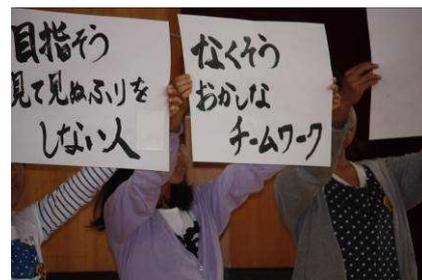
被爆アオギリを発信する相手は多岐にわたった。園児や福島県のア児、大人等、相手が変わると、当然伝え方や発信方法はその時々に変化していかなければならない。何が伝えたいのか、何を考えてほしいのかを毎回明確にしてきた。そのための発信方法や、言葉も、相手によって考えさせてきた。取組の中で子どもたちは、相手意識をもった伝え方が表現できるようになった。

##### ○相手に寄り添って考える想像力

子どもも教師も戦争を経験していない。戦争が身近なものではない。まして、「被爆」というものに実感がない中で、語り部の話や資料から想像して考えていくことが必要になる。相手の気持ちや思いに寄り添って話を聞くこと、その時代背景の様子や人々の苦しみ、悲しみを想像しながら、自分たちの生活に置き換えていくことで平和への思いを育んできた。

○自らが人権確立の主体者として行動する実践力

一番弱い立場のものが、はじめに被害を受ける。現在の子どもたちの生活に置き換えると、それは、「いじめ」になるであろう。本校では、各学級のいじめ“ゼロ”アクションプランと題して、自ら「いじめ」をしない、させない、許さない取組を全校で行っている。その中でも、子どもたちは、「人を傷つける言動・行動をしない」「正しい意見は勇気をもって伝える」等、人権が大切にされる学校をつくるために、自らが主体者として実践していく姿を見せている。



## 5. 実践事例についての評価

本事例を通して、子どもたちの心情面の変化もみられた。

○自尊心を高める・命の尊さを知る

- ・被爆アオギリの学習を通して、戦争は嫌だけれど、それ以上に自分も人を傷つけないし傷つけられたくないと思いました。

生きてくても生きられなかった人たちがいる。被爆アオギリにその思いをこめた人々がいることを感じた子どもたちは、その人たちの分まで、今生きている自分たちが、自分や周りの命を大切にし、そのことを伝えていかなければならないと考えることができた。「戦争はいけない＝自分たちの日常生活からケンカや争いをやめていく」ことを実践している。

○社会をつくっていく主体者としての自覚を持つ

- 芽を出さないかもしれない、それでもアオギリを育て続けた人たちの思いや諦めなかった気持ちに感動しました。私たちも諦めない気持ちを大切にして、みんなが笑える世の中にしていきたいです。

被爆アオギリを通して、生きる希望を見出した人々、諦めずに育て続けた人々の思いや願い、生き方を感じ取ることで、人が大切にされる社会は自分たちの手でつくっていくという主体性が生まれた。諦める前にまずは行動してみる、間違っただけには自ら止めようと行動する子どもたちが増えた。

○出会いから共生の心を育む

被爆アオギリを通して、多くの人々と出会い、つながりを広げ、深めることができた。福島県のA児との絆、園児との交流、ゲストティーチャーや被爆アオギリに関わり続けた人々との出会い、様々な人の思いや願い、生き方にふれることで自分と周り人との関わりを見つめ直すことができた。本取組後、授業の中での教え合い、休み時間に特別支援学級へ行っての交流など、自ら関わり、関係を深めていこうとする実践力を多くの場で発揮する姿が見られる。



被爆樹（被爆アオギリ）から学んだ、平和の大切さ・命の尊厳・友との絆は、卒業を前に、在校生へと引き継いでいかなければならない。子どもたちの卒業記念樹として本校にも被爆アオギリを植樹する。被爆アオギリを育てることを通して、若葉小の子どもたちが平和を大切にすることを育み、被爆アオギリのもとで、人を大切にすることや命の尊厳について学びを深め実践力を高めていってほしいと願う。その時、その場で一番弱い立場に立っている人は誰なのかを見つめる人権感覚、そこで自ら行動できる実践力を育てていくためにも、被爆樹を通じた人権教育は今後も継続していく。

## 【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

彦根市立若葉小学校

本校の6年生の実践では、命の尊厳と平和な社会への思いを育むことを目指して、人々を絶望から生きる希望へと導いた被爆アオギリを題材にして取り組んでいる。被爆アオギリの歴史や背景、関わってきた人々の苦しみや悲しみについて、調べ学習だけではなく、関係者との学習を構成することにより、児童は想像力を働かせて、人々の思いや願いを共感的に受容している。さらには、学びを発信する場や自分の生活に置き換える場を設定している。これらのことにより、生きて働く知的側面と、価値的・態度的側面、技能的側面がバランスよく育まれ、社会参画への主体者意識が醸成されている。

人権教育の目標に「明るい未来に対する展望がもてる子どもを育成する」ことを挙げているが、学びを紡ぐ中で、社会の一員としての自分の在り方を問いながら、明るい未来の姿を想像することで人権主体としてよりよく生きようとする姿勢が児童のなかに育ちつつあることが伺われる。